

# 素振りとティーバッティングにおけるバットスイングの再現性の比較

Reproducibility of bat swing in tee batting and dry swing

大室康平<sup>1)</sup>, 樋口貴俊<sup>2)</sup>, 彼末一之<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>八戸工業大学基礎教育研究センター

<sup>2)</sup>福岡工業大学社会環境学部

<sup>3)</sup>早稲田大学スポーツ科学学術院

Kohei Omuro<sup>1)</sup>, Takatoshi Higuchi<sup>2)</sup>, Kazuyuki Kanosue<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup> Center for Liberal Arts and Sciences, Hachinohe Institute of Technology

<sup>2)</sup> Department of Socio-Environmental Studies, Fukuoka Institute of Technology

<sup>3)</sup> Faculty of Sport Sciences, Waseda University

キーワード: 野球, バッティング, 素振り, 再現性, フィードバック

Key words: baseball, batting, dry swing, reproducibility, feedback

## 【抄 録】

野球のバッティングの練習方法の一つにバットスイングのみを行う「素振り」がある。素振りはボールを打った場合に比べ、個人で行う時には、良いスイングであったか否かのフィードバックが得られにくい。本研究では素振りと静止したボールを打つティーバッティングのバットスイング軌道の再現性を比較することで、指導に有効な素振りの特徴についての知見を得ることを目的として実験を行った。大学の硬式野球部に所属する選手 10 名を被験者とし、素振りとティーバッティングを各 10 回ずつ行わせ、その試技をハイスピードカメラ 2 台で撮影した。撮影した映像から、バットとボールの 3 次元座標を算出し、素振りとティーバッティングでインパクト時のバットの位置およびスイングの軌道を比較した。その結果、素振りとティーバッティングに、インパクト時のボール中心とバットの芯の距離の左右方向（内外角方向）の平均値、および鉛直方向（上下方向）の平均値の絶対値に有意差が認められた。また 10 回分の標準偏差は左右、鉛直方向とも有意差が認められ、素振りのばらつきが大きくなることが明らかになった。また 10 回分のバット芯の軌道を比較すると、素振りはティーバッティングに比べて、インパクトに向けて平均値からの距離が変わらず、再現性が低下することが明らかになった。

スポーツ科学研究, 15, 17-29, 2018 年, 受付日: 2017 年 4 月 9 日, 受理日: 2018 年 1 月 29 日  
連絡先: 大室康平 〒031-8501 八戸市大字妙字大開 88-1 八戸工業大学基礎教育研究センター  
omuro@hi-tech.ac.jp